

二弁に
ゆかりがある


— 特 集 —

三淵嘉子さん ゆかりの地を訪ねてみた

今年の4月から放送されている連続テレビ小説「虎に翼」の主人公のモデルであり、女性初の弁護士・裁判官として活躍された三淵嘉さんは、弁護士時代に第二東京弁護士会に所属していました。そのような三淵さんと二弁の縁を耳にした編集部メンバーは、今年の夏休み特集のテーマを「三淵嘉子さんゆかりの地を訪ねてみた」にしました。三淵さんの経歴を調べ、東京都内から行きやすかったり、時を超えたつながりを感じられそうな場所を選んで訪ねてみました。二弁創立100周年を2026年に控えている今、二弁の弁護士の大先輩にあたる三淵さんゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょうか。

<三淵嘉子さん 略年譜>

和 暦	西 暦	月 日	
大正3年	1914年	11月13日	シンガポール市で生まれる
昭和2年	1927年	4月	東京女子高等師範学校 附属高等女学校入学
			
			学生時代に住んでいた麻布区筈町 (現在の港区西麻布)付近の現在の様子
昭和7年	1932年	4月	明治大学専門部女子部法科入学
昭和10年	1935年	3月	明治大学専門部女子部法科卒業
昭和10年	1935年	4月	明治大学法学部入学
昭和13年	1938年	3月	明治大学法学部卒業
昭和13年	1938年	11月	高等試験司法科合格
昭和15年	1940年		第二東京弁護士会に弁護士登録 ★初の女性弁護士
昭和22年	1947年	6月	司法省嘱託 司法省民事部民法調査室に配属
昭和23年	1948年	1月	最高裁判所事務総局家庭局兼 民事局事務官

和 暦	西 暦	月 日	
昭和24年	1949年	8月	東京地方裁判所判事補(民事6部)
昭和27年	1952年	12月	名古屋地方裁判所判事 ★初の女性判事
昭和31年	1956年	8月	三淵乾太郎氏(三淵忠彦氏の長男) と再婚
昭和38年	1963年	4月	東京家庭裁判所判事 (少年審判部9部)
昭和47年	1972年	6月	新潟家庭裁判所所長 ★初の女性裁判所長
昭和48年	1973年	11月	浦和家庭裁判所所長
昭和53年	1978年	1月	横浜家庭裁判所所長
昭和54年	1979年	11月	退官
昭和55年	1980年	1月	第二東京弁護士会に弁護士再登録
			
			当会夏季合宿研修会での講演の様子 (二弁ニュース昭和55年10月25日号)
昭和59年	1984年	5月28日	他界

はじまりはここから！
明治大学博物館

連続テレビ小説「虎に翼」展



▲明治大学博物館入口

三淵嘉子さんが法曹を志す最初の一步の舞台となる明治大学。

現在、この明治大学駿河台キャンパス構内アカデミーコモン地下1階に位置する明治大学博物館特別展示室Iでは、特別展として、2024

(令和6)年4月から放送されている連続テレビ小説「虎に翼」展が開催されています。本展示では、「番組紹介パネル」や番組小道具、劇中衣装、出演者全身パネル、セット体現などを通じて、「虎に翼」の世界に浸ることができます。

この度、取材班は、ドラマの法律考証を担当した明治大学法学部村上一博教授に、展示を案内していただきました。写真①②

明治大学博物館の展示は特別展・常設展を問わず原則写真撮影が可能なのも嬉しいところ。ドラマ主人公のモデルである三淵嘉子さんが裁判官をしていた当時の法服と一緒に写真を撮って、SNSにアップすることもできます。写真③



①



②



③

①② 展示物の解説をする村上一博教授
③ 法服+ドラマセット

女性法曹養成機関のパイオニア — 明治大学法学部と女子部 —

隣の特別展示室Ⅱでは、日本初の女性弁護士である三淵嘉子さんをはじめとする女性法曹のパイオニアの人物や当時の貴重な論文・資料などを紹介しています。 **写真④**

明治大学は、いち早く法学を志す女性に門戸を開くため、1929（昭和4）年4月に専門部の一部門として女子部を設置し、1931（昭和6）年には、女子部の卒業生に対して明治大学が設置する学部への入学を認めました。その結果、女子部と法学部で学んだ女子学生のなかから、三淵嘉子さん、中田正子さん、久米愛さんという3名の日本初の女性弁護士がうまれました。ちなみに、女子部の開校式で演説し、自身も女子部開設に積極的に取り組んだ横田秀雄学長は、その後裁判官として、「たぬき・むじな事件」など法曹であれば誰でも知る著名な判決に携わった方でもあります。 **写真⑤**



④ 女性法曹に関する展示 ⑤ 当時の学生証や受験票など様々な貴重な資料を展示

常設展示：刑事部門

村上教授は、現在、明治大学の大学史資料センター所長でもあるため、常設展の見どころも合わせて聞いてきました。

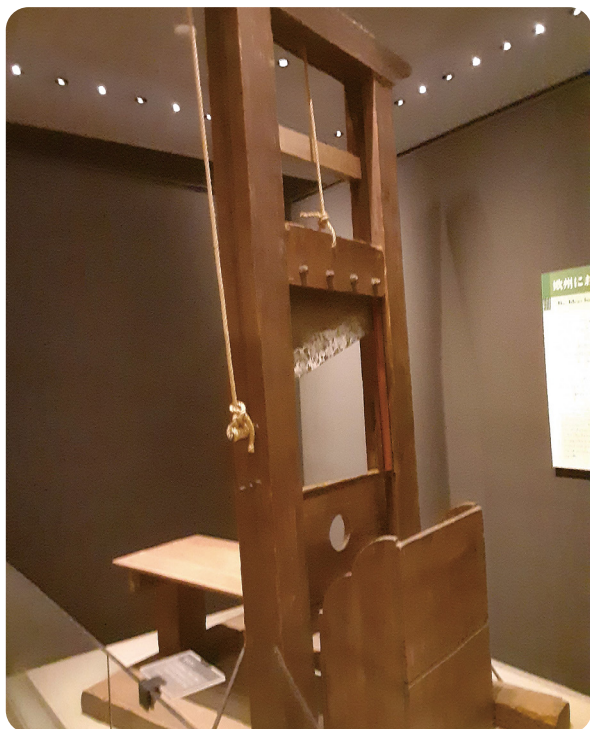
明治大学博物館には、常設展として、刑法にまつわる展示があります。過去の残酷で非人間的な拷問や刑罰を批判的な視点から回顧し、法と刑罰の歴史を学び、現代の法と社会を考えるきっかけとするために、古代から近世にかけての刑法典や江戸時代の警察・裁判・刑罰に関わる資料を紹介しています。御成敗式目や今川仮名目録など著名な刑法典の数々をはじめ、高札、長柄三道具や十手・縛り縄など江戸時代の捕者道具と、取調べの過程で使用された拷問具、刑罰具や近代の死刑具、海外の刑罰具などの復元資料までもあり、弁護士にとっては大変興味深い展示の数々を見ることが

できます。 **写真⑥**

修学旅行生はじめ学生も多く訪れるということで、大人が楽しめるだけでなく、子どもにとっても夏休みの自由研究にふさわしい場所となっています。



⑥ 御成敗式目



⑦ ギロチン台

常設展示いろいろ

そのほかにも、考古部門として、岩宿遺跡出土土器（重要文化財）や玉里船塚古墳の大型埴輪群などの展示、商品部門として各地の伝統工芸品の展示、明治大学卒業生である阿久悠記念館など見どころ満載です。

過去と未来の法曹に 思いをはせて

明治大学博物館が入るアカデミーコモンに隣接するリバティタワー 17階には、美しい景色を眺めながらおいしいお食事が楽しめる学食があります。実はこの場所、女子部の校舎が建てられた敷地でもあるんです。建設は、1942（昭和17）年で、三淵嘉子さんが通ったのは旧校舎ですので、彼女の卒業後ではありますが、ここから数々の女性法

曹の卵がうまれました。現在、明治大学のリバティタワーにはロースクールの教室も入っています。過去に法曹界を良き方向に変えてくださった先人達に思いをはせる弁護士の夏休みにうってつけの場所となっています。展示が開催している期間は、学食も開店しています（ただし学食の開店時間は、博物館の展示の時間とは異なりますのでご注意ください）ので、歩き疲れたら立ち寄ってみるのはいかがでしょうか。 **写真⑧**

夏休みも遠くに行く余裕がないという方でもJR御茶ノ水駅御茶ノ水橋口から徒歩約3分と抜群のアクセスですから、気軽に特別な世界観に浸ることができますよ。



⑧ リバティタワーの食堂

お問い合わせ:

- 明治大学博物館 (TEL:03-3296-4448)
- 入館時間 月曜～金曜 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)、土曜 午前10時～午後4時(入館は午後3時まで)
- 休館日 日曜・祝日、夏季休業期間(8月1日～9月19日)の土曜、1月17日、8月10日～16日、11月1日、12月26日～1月7日、2024年度臨時休館12月25日
※特別展示は、2024(令和6)年10月28日まで
- 観覧料 特別展示・常設展示ともに無料

三淵邸・甘柑荘を 目指して

都内から少し足を延ばしたところで、三淵嘉子さんの息吹を感じたいという方はこちら。実は、嘉子さんゆかりの別荘「三淵邸・甘柑（かんかん）荘」（以下、甘柑荘）が小田原にあるのです。今回は、そこを目指しつつ、寄り道しながら小田原を散策してきました。

まずは小田原のシンボル、 小田原城へ

戦国時代には難攻不落の城とされていた小田原城ですが、現代ではJR小田原駅から徒歩10分程度で応戦されることなく城址公園に「入城」できます。正面入口から入ると正規登城ルートに従って天守閣まで行くことができ、大名気分(?)を味わえるのでお勧めです。

まずはなんといっても天守閣。現在の天守閣は1960（昭和35）年に復興されたものですが、青空に白く映えるその姿は圧巻です。天守閣内には、小田原城の歴史や当時の道具や工芸品などが展示されており、学びながら最上階まで登ることができます。標高約60メートルの最上階では、相模湾や小田原市内が一望できることはもちろん、豊臣秀吉が築城した石垣山一夜城の方角や合戦時の武将の陣地の位置などがわかるAR（拡張現実）アプリも用意されており、歴史を見ることができる工夫もなされています。 **写真①**

また城址公園内にある常盤木門SAMURAI館では、日本刀や甲冑が展示され、サムライスピリッ

ツを味わうことができます。戦国好きにはたまらない内容です。ちなみに、NHK『ブラタモリ』でタモリさんが来られた時に着用なされた兜も展示してあります。

加えて、漫画『NARUTO -ナルト-』にも登場する風魔忍者をモチーフとした体験型アトラクション、小田原城NINJA館（歴史見聞館）や、甲冑や打掛を着て武士や姫に変身して小田原城をバックに撮影できる着付け体験などもあります。小さいお子様向けにはこども遊園地があり、豆汽車など昭和感あるアトラクションが健在。家族や友人同士で行っても楽しめそうな施設になっています。



① 天守閣外観「難攻不落っぽさが漂っています」

お問い合わせ:

● 小田原城 (<https://odawaracastle.com/>)

※詳細は上記ウェブサイトにてご確認ください

せっかくなので 報徳二宮神社も

ご存じ、二宮金次郎こと二宮尊徳を祭神とする神社。以前は各地の小学校に設置してあった金次郎像。今でも日本国内立像界の最大勢力（個人の感想です）ですが、ここにはその原点となる立像があります。あの各地の小学校にあった金次郎像は、昭和初期に全国の小学校に向けて約1000体

が制作されたのが最初だそうですが、その時の立像は戦時中に一体を除いて全て供出されたそうです。そして、なんとその生き残りの一体が、この境内にあります。メートル法普及の意図から身長



がちょうど1メートルになっている金次郎像。一見の価値ありです。境内にはオープンテラスのカフェも。

◀二宮金次郎像「最近では歩きスマホを助長するといった批判もあるとか」

お問い合わせ：

● 報徳二宮神社 (<https://www.ninomiya.or.jp/>)



◀横浜地裁小田原支部「法曹たるもの地元裁判所の確認はマスト?」

いよいよ三淵邸・甘柑荘のある板橋エリアへ

三淵邸・甘柑荘のある板橋エリアは、JR小田原駅から箱根登山鉄道に乗り換えて1駅（所要時間3分）の箱根板橋駅から徒歩圏内で広がっています。古くは北条氏が小田原城を築いた際に職人たちを呼び込んで住ませた職人のまちだったところ、明治以降に山縣有朋など政財界の面々が別荘などを構え、重鎮たちの別荘地ともなりました。

それら別荘のいくつかは、甘柑荘を含めて現存しています。甘柑荘を目指しつつ、ここでも寄り道をしてきました。

◀小田原市郷土文化館分館 松永記念館

「電力王」と称され実業界で活躍しつつ、近代三代茶人の耳庵でもあった松永安左エ門が収集した美術品や松永が居住した「老櫛（ろうきょ）荘」（国登録有形文化財）などを見学することができます。まず記念館の庭園は「日本の歴史公園100選」にも選ばれた名園。記念館本館及び別館では美術品展示もさることながら、産業計画会議勧告の資料など、松永が現代日本に残した生々しい足跡を知ることができ、興味深いものでした。そして、その奥に、松永（耳庵）が晩年を過ごした老櫛荘があります。この1946（昭和21）年建築の近代数寄屋風の建物では、松永が当時の有名茶人や政治家などを招いて茶会が開催されたそうですが、その茶会が開催された茶室などを含め、建物内を見学することができます。敷地内にはそのほかにもいくつかの建物があり、散策しながら楽しむことができます。



▲ 老櫛荘「タイミングが合えば施設の方に説明してもらえます」

お問い合わせ：

● 小田原市郷土文化館分館 松永記念館
(TEL:0465-22-3635)

● 開館時間 午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)

● 休館日 12月28日～1月3日(この他に臨時休館あり)

● 入館料 無料

〈小田原城の土塁と空堀〉

板橋エリアの高台を上っていくと、小田原城の外郭部分の土塁（三の丸外郭新堀土塁）や、敵の攻撃を防御するために尾根を分断して築かれた空堀（小峯御鐘ノ台大堀切東堀）を見ることができます。天守閣からはかなり離れていますので、戦国期最大級の城郭といわれる小田原城の巨大さを感じることができます。



◀ 三の丸外郭
新堀土塁



小峯御鐘ノ台
大堀切東堀▶

〈旧朝倉邸〉

山縣有朋ゆかりの古稀庵(近代日本庭園の傑作)や皆春荘にも行ってみたかったのですが、取材当日が公開日でなかったため、断念してランチをいただくことにしました。そこで、板橋エリアのほぼ中心、旧東海道に面している旧朝倉邸にある薬膳喫茶KURAへ。この旧朝倉邸は1932(昭和7)年に左官屋の棟梁が自宅として建てたそうですが、店主によると当時周辺に住んでいたであろう職人たちが腕を振るって作ったのではないかとのこと。随所にいい仕事が残る和と洋が融合した居心地の良い空間です。「薬膳発酵キーマカレー」などのおいしい薬膳料理にて腹ごしらえし、オリジナルクラフトコーラ「ゴジアイコーラ」で食後

の穏やかな時間を過ごしてから、甘柑荘へ向かいました。



◀ 洋風のエッセンスを取り入れた旧朝倉邸

▼ ゴジアイコーラ



▲ 薬膳発酵キーマカレー

お問い合わせ：

● 薬膳喫茶KURA (TEL:0465-20-9886)

〈甘柑荘〉

甘柑荘は、初代最高裁判所長官・三淵忠彦が昭和初期に別荘として建て、晩年を過ごした数寄屋建築。三淵嘉子さんは、忠彦の長男である乾太郎(けんたろう)裁判官と再婚した後に、この邸宅を別荘として愛用したとのこと。

まずは甘柑荘の裏手にある霊寿院に三淵家のお墓があるということでお参りに。嘉子さんが納骨されている墓石を発見して、合掌。

その後に甘柑荘の門をくぐり、「三淵邸・甘柑荘保存会」の上谷玲子さんと本橋由紀さんにご案内いただきました。ちなみに、お二人とも忠彦のご子孫で、小さい頃からここにも来られていたそうです。

甘柑荘の設計は、日本伝統建築に西洋のモダニズムを取り入れた和洋折衷を得意とした佐藤秀三。南側の芝庭に向いた縁側からは太陽の温かみを感じられ、茶室も含めて随所に数寄屋造りの意匠を凝らしつつ、夏には南北に抜ける土間でくつろぐことができるなど、機能性も兼ね備えた作りになっていました。秀三建築には熱心なファンがいるようで、各地の秀三建築を訪ね歩いているグループが来訪したこともあるとのことでした。



▲甘柑荘「よく記念撮影がされた南向きの縁側」

取材時には、「三淵嘉子と甘柑荘の記憶」と題した企画展が開催されており、嘉子さんの生涯を写真とともにたどるタペストリーなどが展示されていました。その中には、嘉子さんとともに女性初の弁護士となった久米愛さん夫妻、女性初の高等裁判所長官となった野田愛子さん夫妻を三淵家族が甘柑荘に迎えたときの写真もありました。

この写真もそうでしたが、南側の縁側で写真を撮ることが多かったそうです。嘉子さんの日記の一部で、裁判官退官後に弁護士としての仕事をするべきかどうかの迷いをつづったものも展示されていました。奥の方にあった本棚には、嘉子さんの存命当時からあったという書籍が並んでいます。そういったものに触れていると、たしかに嘉子さんがここにいたのだという感覚を覚えました。そして、『虎と翼』撮影前にヒロイン役である伊藤沙莉さんも訪問されたそうで、やはり縁側で撮影した記念写真がありました。

なお、取材時には公開はイベント利用などの場合のみが対象でしたが、現在は期間限定で一般公開されています。嘉子さんが翼を休めた甘柑荘で、彼女の息吹を感じながらひと時を過ごしてみるのも良いのではないのでしょうか。

お問い合わせ：

- 一般社団法人三淵邸・甘柑荘保存会
(Info@kankan-sou.com)
- 公開日時(執筆時現在):
令和6年4月28日～令和7年3月30日のうち、毎週金・日曜日午前11時～午後2時(最終入場は午後1時30分)
- 建物庭園維持寄付金(入館時):
一般500円以上、中・高校生200円以上、小学生以下無料



公式HP
二次元コード

※上記以外の公開が決まれば、公式ホームページ
(<https://www.kankan-sou.com/>)で告知予定



実は二弁と縁の深い 新潟県

いざ新潟へ

三淵嘉子さんの略年譜を見ると、「新潟家庭裁判所」の文字が。三淵さんはここで女性として初の裁判所所長に就任しました。これは行くしかない。ということで、行ってきました新潟県（無理矢理感がすごい）。

東京から新潟へは上越新幹線で約2時間。どうでもいい話ですが、この上越新幹線は上越市も上越地方（新潟県南西部）も通りません。ではなぜ上越新幹線というのかというと、この名称は、並走する在来線の上越線（高崎駅～長岡駅）に由来します。群馬県の旧国名である「上野国」の「上」（上野駅の「上」ではない）と新潟県の旧国名である「越後国」の「越」を組み合わせた結果、たまたま「上越」になったんですね。

そんなことを考えているうちに（嘘つけ）、新潟に着きました。我々が取材に訪れたときはちょうど新潟駅の駅ビル商業施設「CoCoLo新潟」がグランドオープンした直後で多くの人で賑わっていたのですが、朝から飲むわけにもいかないのでここには後で来ることにして、まずは新潟県弁護士会を表敬訪問しました。

二弁と縁の深い 新潟県弁護士会

各地の弁護士会の名称は「県」がついたりつかなかったりでややこしいのですが、新潟は「県」がつきます。新潟県弁護士会。

新潟県弁護士会は、実は二弁と縁の深い弁護士会なのです。まず、略すると「にいべん」です（そう呼んでいる人はいないそうですが）。うちは「にべん」です。似ています。似すぎです。勝手に親近感が湧きます。そして、二弁は、新潟県弁護士会との間で「災害対策における共助に関する協定書」を締結しています。この協定は、平成29年9月に二弁と新潟県弁護士会の2会の協定としてスタートし、その後兵庫県弁護士会と熊本県弁護士会にも加わっていただいている現在は4会の共助協定になっています。二弁では毎年3月11日前後に大規模災害を想定した安否確認訓練を実施しているのですが、あるとき突然「新潟県弁護士会 多田」という差出人からメールが届いて「多田さんって誰？」と思った人も多かったのではないのでしょうか。そうです。あれです。現在も、東京で大規模災害が発生して二弁事務局が機能喪失に陥った



▲新潟県弁護士会の本館(左)と、通りを挟んだ向かいにある別館

場合には新潟県弁護士会から二弁会員に安否確認のメールが送信されることになっています。そのほか、過去の災害経験に基づく知見の共有、定期的な協議会開催による日頃からのパイプ作り、有事の際の業務継続の相互支援体制や被災者支援活動（被災者無料電話相談の応援）の体制構築など、緊密な連携を築いています。

もうひとつ、新潟の地域司法の取組に二弁は一役買っています。二弁の東京フロンティア基金法律事務所で養成された会員が、新潟の弁護士過疎地に赴任して地域での司法サービスに貢献しています。村上ひまわり基金法律事務所ですが、こちらは後ほど訪問します。

新潟県弁護士会館では、藤田善六先生（32期）と二宮淳悟先生（63期、令和6年度副会長）が出迎えてくださいました。



▲藤田善六先生(右)と二宮淳悟先生

豪雪地帯を含み冬場の移動は大変です。しかし、最高裁が1984（昭和59）年から全国の簡易裁判所と地家裁支部の統廃合を行った際、新潟では1988（昭和63）年に巻と小千谷の簡易裁判所が廃止され、1990（平成2）年に村上、小千谷、柏崎、糸魚川の4つの乙号支部^{※1}が廃止されました。新潟県弁護士会では当時地元関係者を交えて存続運動を展開したのですが、それらの地域に弁護士がいないことがネックとなって運動は全県的な広がりを見せず、あえなく廃止となりました。

乙号支部が廃止された4地域には代わりに家裁の出張所が新設されましたが、これらの出張所では事件の受付を行うだけで、審理・調停の期日の際は統合先の支部まで行かなければならないという状況が長く続いていました。こうした状況を受け、新潟県弁護士会では、業務委員会の中に弁護士過疎偏在対策に特化した「第1部会」を設置し、この4つの地域に法律事務所を作って弁護士を配置するための取組を本格的に始めました。関弁連・日弁連のバックアップも受けながら県下の自治体、県・市会議員、国会議員にも働きかけを行い、その結果、法テラス4号事務所やひまわり基金法律事務所が次々と開設されていきました。柏崎や糸魚川では、自治体が法律事務所の設置費用を補

地域司法の取組と 家庭裁判所



新潟県は南北に長く、都道府県別面積ランキングでは全国5位の広さ（12,584km²）を誇ります。



Map-It マップイット©

※1 裁判所の支部は、以前は「甲号支部」（合議体での裁判が可能で、本庁事件を除く全ての裁判が可能）と「乙号支部」（単独裁判官で処理できる事件のみ扱える）の区別がありましたが、1990（平成2）年にこの区分は廃止されています。

助するという条例まで制定して法律事務所を誘致しました。それだけ地域から求められているということです。上越ひまわり、新発田ひまわりや佐渡ひまわりは既に独立定着して公設の手を離れています。

裁判手続のIT化によって、地家裁の支部や家裁の出張所はどうなっていくのでしょうか。コロナ禍を経て今はウェブ会議全盛の時代ですが、ウェブ会議はある程度関係性ができている人同士や、目線の近いプロ同士の会話には適していますが、当事者の感情が交錯する家事調停などにはどう考えても不向きです。去年（2023（令和5）年）の人権大会の第2分科会は「地域の家庭裁判所が真に住民の人権保障の砦たりうるために～司法IT化のすき間で生じる子ども・高齢者・障害者の権利救済・権利擁護支援の視点から～」というテーマでシンポジウムを開催していましたが、IT化によって市民の権利が犠牲にされることがあってはなりません。ちなみに、この第2分科会のシンポジウムには『家庭裁判所物語』『三淵嘉子と家庭裁判所』（いずれも日本論評社）の著者であるNHK解説委員の清永聡さんが登壇され、4月から始まる『虎に翼』を紹介しつつ、家庭裁判所の創設に関わった人々の想いを熱く語っておられました（ようやく話が三淵嘉子さんに戻りました）。

話が終わらない

地域司法の話になると藤田善六先生の話は止まらなくなるので（この話をしていると「日が暮れる」ではなく「夜が明ける」のだそうです）、地域司法の話はこの辺にしておきます（実際はもっと長かったのですが）。ほかに、裁判所の移転話に合わせて移転予定地の近くに弁護士会の新会館の用地として330坪の土地を買ったのに裁判所が一向に移転せず、ついには現庁舎の耐震工事までしてしまった話とか、マスコットキャラクター「まもルン」の着ぐるみを作ろうとしたときに「火

をつける」と物騒なことを言って反対していた重鎮が藤田善六先生であったこととか、「おかしいだろ、これ。」という空前絶後の短文会長コメントなどなど、「にいべん」には面白い話はいくつもあるのですが、紙幅の関係で割愛させていただきます。すみません。最後に、藤田先生に新潟家庭裁判所の建物に案内していただいて、「にいべん」への表敬訪問を終えました。藤田先生、二宮先生、ありがとうございました。



◀ 藤田善六先生に「火をつける」とまで言わしめた「まもルン」の後ろ姿（2019年7月16日：日弁連全国広報担当者連絡会議にて筆者撮影）。実はこのとき中に入っていたのは二宮淳悟先生だったことが今回の訪問で明らかに。

新潟家庭裁判所の現在の庁舎▼



市内を少しだけ観光



時間も紙幅も尽きたので少しだけ。ホテル日航新潟の上にある「Befcoばかうけ展

望室」。市内を一望できます。

「新潟5大ラーメン」の1つ、あっさり煮干し醤油ラーメン。淡麗で美味。

CoCoLo新潟メッツ館3階にある「ぼんしゅ館」。

日本酒の利き酒ができるのですが、大行列で断念。この日はクラフトジンの試飲をやっていたので、なぜか新潟でジンを飲んで、新潟観光を終了しました。次は村上です。



① Belfcoばかうけ展望室からの眺望
② ぼんしゅ館
③ 煮干し醤油ラーメン

三淵嘉子さんが勤務した 裁判所など

三淵嘉子さんが所長を務めた新潟家庭裁判所、浦和家庭裁判所（現・さいたま家庭裁判所）、横浜家庭裁判所はいずれも当時から建替えがなされています（現在の様子は写真のとおりです）が、初の女性判事として執務した名古屋地方裁判所については、当時の庁舎（1922（大正11）年竣工）が、現在も市政資料館として保存・公開されています。ネオ・バロック様式と呼ばれる建築で、国の重要文化財にも指定されています。

名古屋市のHPの「3D市政資料館バーチャルツアー」（<https://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000105470.html>）で荘厳な内装を見ることができますが、名古屋城の近くでアクセスも良いので、名古屋に行かれた際には足を運んで、当時の裁判所の空気を感じてみていただければと思います。

① さいたま家裁 ② 横浜家裁 ③ 市政資料館 外観 ④ 市政資料館 中央階段室



「鮭(さけ)・酒(さけ)・人情(なまけ)」のまち 村上市探訪

特急「いなほ」で 新潟駅から村上駅へ

新潟県弁護士会におじゃました後、私たち広報室メンバーは、新潟駅から特急「いなほ」に乗り込み、車窓から田園風景を眺めながら村上へと向かいました。

村上駅に到着すると、まず目に入ったのは、駅構内の天井から吊るされた塩引き鮭です。塩引き鮭は、内臓を取り除いて水洗いした鮭に塩をすり込み、1週間ほどおいた後流水に浸して余分な塩を抜き、軒先などで数週間干し上げて作られる村上を代表する特産物です。村上滞在中、いたると

ころで塩引き鮭に遭遇しました。駅構内には村上観光のキャッチフレーズである「鮭・酒・人情」の横断幕、観光キャラクターの「サケリン」、村上を代表する銘酒「メ張鶴(しめはりつる)」と「大洋盛(たいようざかり)」の樽などもあり、観光客の気分を盛り上げてくれます^{※1}。

写真①～③ 村上駅

村上ひまわり基金 法律事務所



私たちが村上で最初に訪問したのは、観光地ではなく、村上ひまわり基金法律事務所です。出迎えてくれたのは、所長を務める70期の飯塚塚太先生(新潟県弁護士会所属)です。飯塚先生は、第二東京弁護士会の支援により設立された東京フロンティア基金法律事務所での研鑽を積んだ後、2020(令和2)年10月に村上に赴任されました。本誌2022(令和4)年6月号掲載の「遠い空から」^{※2}を読めば、コロナ禍の最中に赴任した飯塚先生の活躍を知ることができます。今回、村上を訪問先に選んだ理由は、三淵嘉子さんのゆかりの地そのものではないものの、まさに現在進行形で二弁と縁が深い弁護士が活躍している場所だからです。

飯塚先生によると、「遠い空から」誌執筆時と比べ、事務所で扱う事件の種類にさほど変化はないとのことでした。ただ、新潟は洪水などの自然災害が多い地なので、新たな災害が起こるたびに、災害関連の相談対応業務などが発生するとのことでした。そのほかにも、地方ならではの自治体や社会福祉協議会などとの連携に関するお話や、新潟県の総面積のおよそ9.3%を占めており、海岸線が約50キロメートルにも及ぶという広大な村上ならではの移動の苦労など、興味深いお話を伺うことができました^{※3}。

飯塚先生に村上での夏休みのお勧めアクティビティを聞いたところ、「シーカヤックは楽しいですよ!」と教えてくれました^{※4}。インストラクター

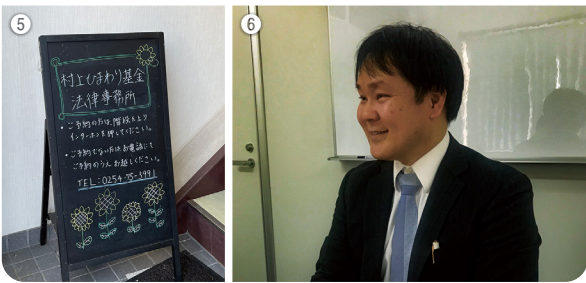
※1 村上市観光協会公式サイト <https://www.sake3.com/>

※2 https://niben.jp/niben/pdf/NF202206_40.pdf

※3 村上市公式サイト <https://www.city.murakami.lg.jp/soshiki/135/gaiyo.html>

※4 笹川流れカヤックセンター公式サイト <https://www.snkc2020.com/>





④村上ひまわり基金法律事務所 ⑥飯塚敬太先生

が漕ぎ方などを指導してくれるそうなので、初めての方でも試してみてもいいのではないでしょうか。

写真④～⑥

夕食は、飯塚先生が「遠い空から」にのしそうな写真を掲載していた和楽寿司にて、メ張鶴や大洋盛とともに、日本海の新鮮な魚介を使ったお寿司をいただきました^{※5}。



▲お寿司、瀬波温泉の酒店で購入したメ張鶴と大洋盛

瀬波温泉まで連れて行ってくださったこともありまして」と語っていたインタビュー記事^{※7}を目にした私たちは、迷うことなく瀬波温泉を予約していました。宿泊先は日本海を望む大きな露天風呂が自慢の「大観荘せなみの湯」です^{※8}。ここでも、最初に迎えてくれたのは塩引き鮭でした。残念ながら、日の入りまでに到着できませんでしたが、翌朝、誰でも無料で楽しめる日本海側最大級の足湯（その名も「足湯日本海」）に浸りながら眺めた日本海の景色も格別でした^{※9}。



▼足湯 大観荘▶



瀬波温泉

夕食後は、瀬波温泉へ。瀬波温泉は、村上駅から車で約10分程度で行ける、日本海に沈む夕陽が有名な景勝地です。1904（明治37）年、石油掘削中に熱湯が噴出したのが始まりという透明なナトリウム-塩化物泉で、泉温は95℃と高温です^{※6}。

三淵嘉子さんの御子息である芳武さんが「祖母が四角いかごを背負ってぼくを中に入れ、新潟の

見どころ満載！

レンタサイクルで市内観光

チェックアウト後、旅館の送迎バスで村上駅へ。天候に恵まれたこともあり、駅のコインロッカーに大きな荷物を預けた後、駅前の観光案内所でレンタサイクルを借りて市内探訪へと繰り出しました^{※10}。

観光案内所▶



※5 村上市観光協会 <https://www.sake3.com/spot/1988> ※6 瀬波温泉旅館協同組合公式サイト <https://www.senami.or.jp/>

※7 佐賀千恵美「三淵嘉子・中田正子・久米愛 日本初の女性法律家たち」日本評論社、2023、P59 ※8 大観荘せなみの湯公式サイト <https://www.taikanso.senaminoyu.co.jp>

※9 村上市観光協会 <https://www.sake3.com/spot/307> ※10 村上市観光協会 <https://www.sake3.com/news/19143>



7



8

7 安善寺 8 黒塀通り(割烹「新多久」前)

出発して最初に向かったのは、黒塀通り（安善小路）です。黒塀が続く中、小路の名称の由来となった安善寺（1655（明暦元）年創立）や江戸時代末期創業の割烹「新多久」（新潟県弁護士会の先生方の間でも有名な料亭とのこと）といった趣がある建築物が点在する小路です^{*11}。写真7・8

町屋通り

次に向かったのが、昔ながらの町屋造りを生かした建物が立ち並ぶ町屋通りです。中でも、「鮭」という文字がとりわけ大きく書かれた暖簾に魅了され、鮭製品を扱う老舗店「きっかわ」に足を踏み入れました^{*12}。国の登録有形文化財でもある町屋づくりの店舗の奥に進んだ私たちは、吊り下げられた塩引き鮭の大群に圧倒されてしばし天井を見上げていました。すると、同店15代目の吉川真嗣（きっかわしんじ）氏が現れ、村上と鮭を巡る歴史や町屋について親切に説明してくれました。私たちが弁護士会の取材で村上市に来たことを告げると「私も弁護士会でお話したことがあります」とのこと。「むらかみ町屋再生プロジェ

クト」^{*13}の会長として街並みの再生に尽力した吉川氏は、なんと2021（令和3）年10月に岡山市で開催された日弁連人権擁護大会で、住民主導のまちづくりと地域活性化の取り組みを紹介する基調報告をされていたことが判明^{*14}。思いがけない弁護士会と村上の縁を感じる訪問となりました。



9



10

11

9 きっかわ 10 町屋
11 塩引き鮭 12 鮭製品



郷土資料館・武家屋敷

次に訪れたのは、郷土資料館（おしゃぎり会館）です^{*15}。おしゃぎりは、国の重要無形民俗文化

^{*11} 村上市観光協会 <https://www.sake3.com/spot/2460> ^{*12} きっかわ公式サイト <https://www.murakamisake.com/>

^{*13} むらかみ町屋再生プロジェクト公式サイト <https://mmsp.info/> ^{*14} <https://www.nichibenren.or.jp/document/newspaper/year/2021/573.html>

^{*15} おしゃぎり会館公式サイト <https://www.iwafune.ne.jp/~osyagiri/>



13 おしゃぎり 14 若林家住宅

財「村上大祭」において曳きだされる山車のことを指します。幸運なことに、訪問当日は、資料館前のスペースでイベントが開催されており、晴天に映えるおしゃぎりを間近で見ることができました。また、郷土資料館に隣接した敷地には国指定重要文化財の武家屋敷「若林家住宅」もあり、曲屋造りの茅葺平屋建ての屋敷内部や庭園を見学することができます※16。写真13・14

イヨボヤ会館

村上観光の最後に立ち寄ったのはイヨボヤ会館です。イヨボヤとは、村上の方言で「鮭」を指します。イヨボヤ会館は、村上市を流れる三面川(みおもてがわ)の畔にある「鮭公園(サーモンパー

ク)」の中心施設です※17。村上と深いつながりのある鮭について、生態はもちろん、村上の歴史や文化との関係などについて、見て・聞いて・触って、楽しみながら学ぶことができます。

江戸時代に、鮭の母川回帰の習性を利用した三面川の分流造成に貢献し、村上の鮭文化の礎を築いた村上藩士の青砥武平治(あおと・ぶへいじ)の功績について資料やアニメなどを使って紹介するコーナーは、歴史好きが多い弁護士に刺さる展示です。また、様々な淡水魚を水槽展示する「ミニふ化場」で餌やり体験をしたり、「こどもサケ科学館」コーナーで鮭についてクイズを通じて学ぶなど、お子様も楽しめます。

そして、何よりも興味深かったのが「三面川鮭観察自然館」コーナーでした。三面川の分流「種川」に沿って作られた全長50メートルの観察室の観察窓から、自然のままの川の中を見ることができます。タイミングがあれば、秋には遡上する鮭の群れや産卵の様子を見ることができるそうです。

今回の広報室メンバーはいずれも村上初心者でしたが、魅力的な場所や名産が多いことに驚かされ、帰る頃にはすっかり「村上ファン」になっていました。取材日はゴールデンウィークの初日でしたが、観光客が殺到するような様子もなく、ゆったりと楽しむことができる場所だと感じました。新潟方面にお出かけの際に、村上まで足を延ばしてみてもはいかがでしょうか。N.F



15 イヨボヤ会館 16 餌やり体験 17 クイズコーナー 18 種川大観察室

※16 おしゃぎり会館公式サイト <https://www.iwafune.ne.jp/~osyagiri/sisetu/sisetu.html>

※17 イヨボヤ会館公式サイト <https://www.iyoboya.jp/>